

の3階に配置している。大学院の教育指導は主として「双方向型・学習参加型」にて行っている。その指導環境をハード的に確保するために、特にA棟では教員研究室に大学院生の研究スペースを取り込み、時間に拘束されることなく担当教員との積極的なコミュニケーションを図っている。また大学院生が研究成果をプレゼンする際のOHC、プロジェクター等々視聴覚機器・AV機器も一部老朽化があるものの、現在のところ有効的に活用されている。さらに、前述したとおり平成20年度戦略的大学連携支援事業として選定された「国公立大コンソーシアム・福岡」についての具体的な展開が図れる中、その推進にあたりハード的な側面支援を検討している。

このように、本学の施設・設備の整備は、目標の達成に向けて適切に進行中であると判断される。

(2) 教育の用に供する情報処理機器などの配備状況

教育の用に供する情報処理機器などの配備状況については、**本章 16. (三) 情報処理センター**の項で記述する。

(二) 先端的な設備・装置

(1) 先端的な教育研究や基礎的研究への装備面への整備の適切性

先端的な教育研究としては、平成16年度「次世代マイクロ／ナノ金型開発センター」平成17年度「ハイテク・リサーチ・センター」（文部科学省私立大学学術高度化推進事業産学連携推進事業）が採択され、各々の研究課題に添った施設環境を整備した。

前者は、本部棟1階の旧レストラン（食堂）の一角に24時間定温（恒温）環境を維持する実験室と高精密機器を有する測定室及び計測室を配置、設備としては走査型共焦点レーザー顕微鏡、走査型プローブ顕微鏡、精密機器用圧縮空気供給装置、ドラフトチャンバー等を導入した。後者は、B棟6階の総合研究機構所のスペースに環境計測室を設置、設備としては顕微レーザーラマン分光装置、MALDI-TOF 質量分析装置、高速液体クロマトグラフ／質量分析計、DNAシーケンサー等を導入した。

なお研究成果等の詳細および先端的研究の用に供する機械・設備の整備・利用の際の、他の大学院、大学共同利用機関、附置研究所等の連携関係の適切性については、**本章 16.**

(一) 総合研究機構で記述する。

(三) 夜間大学院などの施設・設備等

(イ) 夜間に教育研究指導を行う大学院における、施設・設備の利用やサービス提供についての配慮の適切性

夜間での教育研究指導と施設・設備に利用サービスについては、一部、大学院の施設設備の項で前述しているが、研究室の他に開講時間18:30～20:00にあわせて図書館及び情報処理センターを開放している。また、エレクトロニクス研究所・情報科学研究所・環境科学研究所等、附置研究所の利用は申し出があれば利用時間の延長が可能となっている。

(四) キャンパス・アメニティ等

(イ) キャンパス・アメニティの形成・支援のための体制の確立

第Ⅱ期施設整備工事の完了により、学生が真に教育研究に取り組む環境と「ゆとりと安らぎ」を兼ね備えたアメニティスペースが確保された。具体的には、自習室として既存の総合学習センター（α棟）3階（400㎡）に加え、本部棟1階の一部を自習室に用途変更（500㎡）さらに各棟に自習室を兼ねるリフレッシュコーナーを設置した。併せて「学生のコミ

ユニケーションを作る場所」としてA棟1階(600㎡)とB棟地下階(500㎡)を確保、結果として既設の学生ホールも併せ、学生が終日キャンパスの中でくつろげる場所としては十分なスペースが確保された。また利用状況も本学学生は勿論のこと、エクステンションセンター受講者、さらには近隣高校の生徒等が時間の許す限り利用している姿が窺える。

(ロ)「学生のための生活の場」の整備状況

本学では教育の領域を「環境、情報、モノづくり」に置き学生のための諸施策を実施している。まず、環境に関しては、学生・教職員や地域近隣住民が一丸となって月に1回キャンパス内外の清掃をボランティアにて参加活動しているキャンパスクリーンデーの実施や、安全で安心な町づくり(生活環境)のための夜間巡回(セーフティパトロール)への参加等、環境保全マインドの醸成に努めている。次に情報教育の視点から、図書館はもとより総合学習センター内の自習室、各棟のリフレッシュコーナーに情報コンセントを設置したことにより、学生はいつでも自前のノートパソコンが自由に使える環境を整えた。またモノづくりでは、α棟1階にモノづくりセンターを配置、学生が自由に参加し、個人の創造によるモノづくりが可能、プロジェクト型学習が継続して実施されている。以上は教育的な配慮を重視した整備の一環である。

また、学生の食生活であるが、本学にあってはB棟にレストランOASIS(800席)を配置し、ハード面のみならずメニュー内容、価格、味覚にも十分配慮した結果、利用者も増加しトータル的に学生生活の場としてのキャンパスには満足度も高いと評価できる。ちなみにレストランOASISは近年、他大学の学食で高級化が進む中、全国学食ランキング2008でベスト10入りを果たしている。

(ハ) 大学周辺の「環境」への配慮の状況

本学では平成9年10月に行政、警察、校区自治会、町内会、及び学生、教員、事務局員で立ち上げたキャンパスサミット(町作り委員会)を通じた活動が高く評価され、平成17年5月福岡県からNPOの認証を受けることとなった。活動については、以前と変わらず月1回のキャンパスクリーンデー実施、古紙回収のエコステーション管理、セーフティパトロール等が挙げられる。

これらは、本学の基本方針の中に「地域との共生、地域の中の大学づくり」を掲げており、今後も地域とのさらなる信頼関係を深め持続可能な展開となるよう努めていく所存である。

(五) 利用上の配慮

(イ) 施設・設備面における障がい者への配慮の状況

施設整備により、学生の快適性・利便性が飛躍的に向上された中、特に障害者における利用上の配慮として、まず安全性の向上の観点から、建物外周の配慮(段差なしのアプローチ)やJR福工大前駅から本学正門に至る間「学園通路」(点字ブロック・エレベーター)を設置、また本学の正門から開けるアプローチも段差なく、滑りにくい構造と、なだらかな傾斜となっており安全性・バリアフリーを配慮した造りとなっている。さらに学園内の通行帯も人専用と自動車専用とに明確に区分しており、要所に身障者専用駐車場を設置している。新たに車両の違法進入を防止するためパスカード対応のカーゲート(無人機)を2か所に設置した。

次に、利便性・快適性・機能性の向上の観点から、分散していた校舎の集中高層化を図り、各棟を渡り廊下で接続することより雨天時の移動に傘が不要となったことや、講義室を低層階(4階以下)に集中したこと、また最も多く学生が利用するA棟及びB棟につい